



Subaru

男声合唱団

ニュース№594

'16. 12. 13

うたごえの仲間の合唱団コンサート開催 「ロシア民謡合唱団コスモス」・「友よ闘ってこそ 明日がある合唱団」・「衛都連合唱団」

□12月に入り、大阪のうたごえの合唱団が相次いで演奏会を開催しました。12月3日(土)の堺市役所うたごえサークル「ら・ら・ら」のあと、12月10日(土)には本並先生が指揮する「ロシア民謡合唱団コスモス」が「創立25周年記念ミニコンサート」を大阪グリーン会館で、同日に「友よ闘ってこそ明日がある合唱団」が堺サンスクエアホールで、そして12月11日(日)に「衛都連合唱団」が「30周年記念・第12回演奏会」をクレオ大阪中央大ホールでと、相次いで開催しました。どのコンサートも満員の大盛況、それぞれの地域や職場や諸団体の中で根強く活動をしている合唱団の特色をいかに発揮され、会場は大きな感動につつまれました。「昴」の仲間も「うたごえの仲間」として、また一聴衆として参加しました。その感動の一端をニュースに紹介します。



□「ロシア民謡合唱団コスモス」は、「ロシア民謡をこよなく愛しうたう」合唱団として、「創立25周年記念ミニコンサート」を大阪グリーン会館で開催しました。

会場は2000年以来毎年2回、今年で22回を数える「ロシア民謡の夕べ」を100名以上の参加者で歌ってきた大阪グリーン会館。180席では足りないほどのお客さんが来られ、ロシアのうた一色に会場は包まれました。

第1部では、特別団員の参加も得て、24名のメンバーで、コンサートの最初を飾る得意の「ロシアメドレー」(一週間・カチューシャ・トロイカ・ともしび・泉のほitori・カリンカ・黒い瞳)で始まり、「バイカル湖のほitori」、そして女声合唱「赤いサラファン」、男声合唱で「仕事の歌」を、最後に「ルスカエポーレ(ロシアの曠野)」 「青年の歌」と続けました。

第2部は特別ゲストのナターリア・コズローヴァさんを迎えて、ロシア民謡・ロシア歌曲・ロマンスの曲を披露され、会場は彼女の美しいソプラノの歌声に魅了されました。「深い河ヴォルガ」「黒い瞳の」「私を責めないで」「ウラルのぐみの木」「私は罪深い」の5曲、そしてアンコール曲として歌われた「深い井戸」では、彼女の「ソプラノの高音を鳥のさえずりのように自由に歌い上げ

るコロラトウーラ」の歌手としての魅力あふれる声が情感豊かに会場に響き渡りました。

第3部では、「みんなで歌う会」を門田さん・芦原さんの名進行役のもと、ロシア民謡の数々を楽しく、リクエストを交えて歌っていきました。今回、男声合唱団「昂」からも4名の要員担当を含め14名が参加され、飛び入りの形でのご指名でロシア民謡「道」「白樺」の2曲を披露しました。



最後に団長の吉本さんからお礼のことばが述べられました。

1991年にロシア民謡をこよなく愛するメンバーでサークルとして立ち上げ、1999年に本並先生を指揮者として迎え、本格的な混声合唱団として活動して25年、5回の独自のコンサート、地域や諸団体の催しへ出かけての演奏、そして「ロシア民謡の夕べ」「歌声喫茶5の土」の根強く人気のある「うたう会」の開催の継続等コスモスの25年を話されました。

「愛と恋、生活や仕事のよろこび・苦しみ・悲しみ、戦争と平和の問題、ふるさとや未来への思いを託す、詩もメロディーもハーモニーも素敵なロシアの歌、歌がつくられた時代背景は様々だが、今生きている私たちの心にぴたりする歌がたくさんある。「なんでロシア民謡なの？」はありますが、本当に人間らしく輝いて生きる、ともに歌う喜びを分かち合い、みんなで声を合わせて歌うことでつながっていく、一人一人の力は小さいが、平和と未来を切り拓いていく力になれば・・・の想いでこれからも歌い続けます。コスモスに入団してください。「5の土」にお越しください。」と締めくくられました。（吉川記）

「友よ闘ってこそ明日がある合唱団」コンサートを聞いて

立川孝信

12月10日堺サンスクエアホールでのコンサートを聞いた。会場はほぼ満員で子どもから大人までうたごえサークルの仲間の顔もたくさんあった。

「友よ合唱団」がもう15年を迎えることに改めて感慨を深くした。最初の頃私も参加していて色いろな爭議支援に一村氏の作曲でかけつけた。そんな中で仲間も増え、国鉄・NTT・自治体・証券・港湾などの労働者合唱団だった。今回のコンサートも「愛と平和そして働く者の闘いを励ます生きる力となるコンサート」として「うたごえの原点」に貫かれていた。様々な戦いの中で生まれた作曲や全体を通して平和な社会の中で人間らしく働きたいという願いにあふれた選曲ばかりでストレートに心に飛び込んできた。解りやすい歌詞、テーマのしっかりした歌、心揺さぶるメロディーで自然と涙があふれてきた。こんなに涙したコンサートはかつてなかった気がする。つい先日愛媛での日うた祭典に参加し、大音楽会が生きる力・闘う力・平和の力という「うたごえの原点」を歌い上げており、久しぶりに感動したが、「合唱発表会」の方は確かに合唱としては高い水準の音



楽力量をもったうまい団ばかりで一面うたごえ運動の発展を感じたが、ふと疑問を感じるものだった。「感動がない、何を歌っているの伝わらない、歌詞が解らない、これでいいのか」と思った人は私だけではないと思う。私が18歳の時、武道館での「日本のうたごえ祭典」に生まれて初めて参加し、歌の力に心底感動したことが私のうたごえ人生の始まりだった。今回の「友よ」のコンサートはそんな私の原点、いいえ「うたごえ」の原点に立ち返らせてくれるものだった。「歌詞が良く分かる、何を伝えようとしているのかが痛いほど解る、みんな心ひとつにして歌っている、だからうたの中味がドーンと心に届く、自然と涙が溢れてくる。」それはアンコールの「人間の歌」が終わっても拍手が鳴りやまなかったこと、そしてまた「未来をかけて」を歌った後も拍手が続いたので再び「人間の歌」が歌われたことですべてが語られていた。この歌の通り私も生きて生きて生き通して人間の歌を歌い続けたいと思う。

「友よ」の皆さん本当に有難う。

□「うたい・継ぐ」衛都連合唱団 30 周年記念・第 12 回演奏会

全国の「自治体のうたごえ」の中心的な合唱団として長年活動している「衛都連合唱団」の演奏会が 12 月 11 日(日)クレオ大阪中央・大ホールを満席にして開催されました。

メインテーマは「うたい・継ぐ」。正団員女声 24 名・男声 9 名の 33 名、特別団員女声 19 名・男声 6 名の 25 名のメンバーでの混声合唱団。

1 部のステージを正団員で、ポピュラーでよく歌われている曲を中心に 8 曲を。そして間にゲストの「郷土サークル野火」の華やかで力強い太鼓と笛のステージを入れ、**3 部に若い次の世代の「保育や厳しい職場で働く青年男女の仲間と共に」の「楽しいことをいっぱい」「HEIWAの鐘」の 2 曲で舞台は一気に若々しい雰囲気**に包まれました。

休憩をはさんで、**4 部では、特別団員と共に 60 名近くのメンバーの合唱。衛都連合唱団の得意とする曲が続きました。**

「ひとりのうた」2016 年の日本のうたごえ合唱団委嘱作品。「いま行動しないと一生後悔する・・・」の思いで、安保法制に反対！の意思表示を歌った曲。

「忘れっぽい人に」外山雄三作曲。「あした戦争がはじまる?!」満員電車で通う毎日の生活の中で「人を人と思わなくなる」。虐殺や自殺の報道ばかりで「人の命の大切さを大切に思わなくなった」。そして準備が整い、戦争を戦争と思わなくなったその時、いよいよあした戦争がはじまる！平和が脅かされ戦争の道へ「まさか」そして 2016 年日本のうたごえ祭典受賞曲「合唱のためのラブソディ・魔女はだれだ！」と一貫して日本と世界の今、「平和を守ろう！戦争反対!」をテーマにした曲で聴衆の心を揺さぶり続けました。

最後に団長から、「30 年前に衛都連という労働組合の文化活動の一環としてスタートしてやってきた合唱団、いつも心にとどめていることは、働く者の願いと平和の願いをうたごえを真ん中にしながら共感をもって伝えることができる合唱団をめざして！その想いを集大成して思いを込めて今日のコンサートを開いた。今後とも初心を忘れず地道に働く者の心に寄り添って歌っていきたい。」と謝辞を込めた挨拶がありました。(吉川記)

Program	
～1st stage 衛都連合唱団～	
仲間達	作詞：くすみまこと 作曲：芥川也寸志 編曲：徳山美奈子
たんぼぼ	作詞：門倉 鉄 作曲：堀越 浄 編曲：金井 誠
青春の輝き	作詞・作曲：Richard Carpenter 編曲：青山義久
生きてりゃいいさ	作詞・作曲：河島英五 編曲：三阪仁晃
ラストワルツ	作詞・作曲：L.Reed & B.Mason
ビビディ・バビディ・ブー	作詞：J.Livingston 作曲：M.David 編曲：金井 信
鳥が	作詞：川崎 洋 作曲：新実徳英
帰り道	作詞：衛都連合唱団 作曲：小林康浩
指揮 守屋博之 ピアノ 門 万沙子	
～2nd stage ゲスト～	
郷土サークル 野火	
祭り囃子	(創作曲)
花笠音頭	(山形県民謡)
楽	(創作曲)
鏡子の早打ち	(千葉県民謡)
～3rd stage 職場の仲間とともに～	
保育・青年合同	
楽しいことをいっぱい	作詞・作曲：松 梨太郎
HEIWAの鐘	作詞・作曲：仲里幸広
指揮 川口純子 ピアノ 南村知佐恵	
～4th stage 特別団員とともに～	
ひとりの歌	作詞：きむらひすみ 作曲：武 義和
忘れっぽい人に	作詞：中桐雅夫 作曲：外山雄三
戦争を知らない子ども達	作詞：北山 修 作曲：杉田二郎 編曲：信長貴富
ほらね、	作詞：いとうけいし 作曲：松下 耕
まさか	作詞：門倉さとし 作曲：吉岡弘行
合唱のためのラブソディ 魔女はだれだ！	作詞・作曲：木下そんき
We Shall Overcome	作詞：Pete Seeger 他 作曲：Charles Albert Tindley 編曲：赤塚文雄
指揮 守屋博之 ピアノ 門 万沙子	
司会 黒川淳子	舞台監督 溝口隆徳